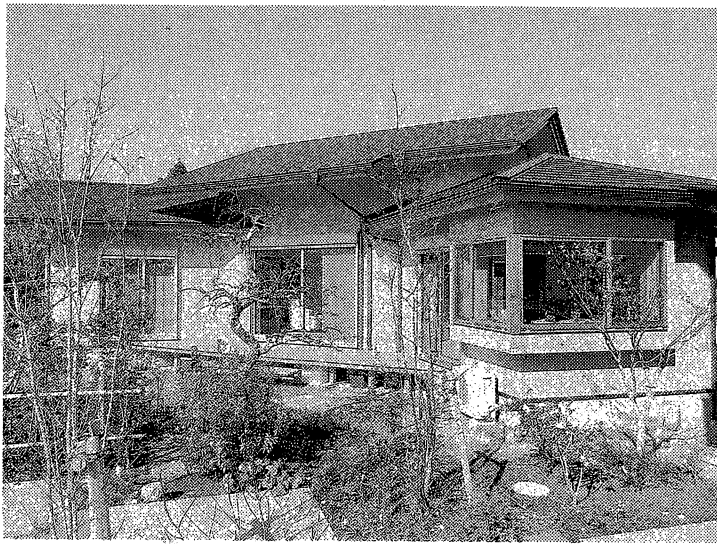


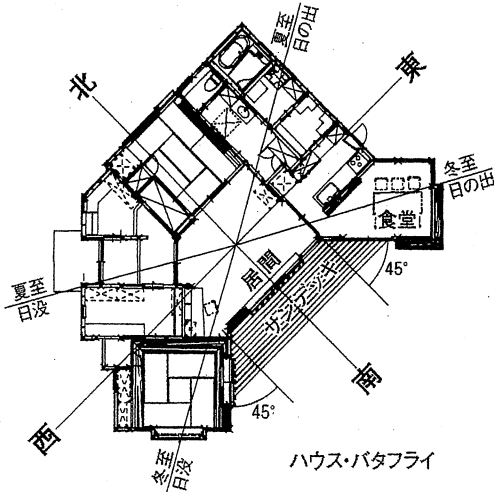
ダイニングにこだわり

「千人」採光工夫の工法提唱

注文住宅の施工やリフォームを手掛ける「千人」(都城市、河野義隆社長)は、ダイニング(食堂)にこだわった家造りを展開している。採光や風通しなどを徹底的に工夫し、一年中快適に過ごせる独自のハウス・バタフライ工法を開発。ダイニングを家族が集まる



千人が開発したハウス・バタフライ工法の家。下図のように居間を中心にダイニング(手前)と寝室(左奥)が突き出し、チョウが羽を広げたような形状—宮崎市



ハウス・バタフライ

076。

0)100

(0)12

せはフリー

ダイヤル

が条件。

1年間のモ

ニター協力

が条件。

学会開催や

完成後の見

月14日で、

15日から3

応募期間は

1人に、100万円を

とするリフォーム(工事金額

300万円以上)を計画中の

1人に、100万円を

るキャンペーンを実施する。

ている」と自信を示す。

同社は、宮崎市が都城市で

ダイニング・キッチンを中心

とするリフォーム(工事金額

300万円以上)を計画中の

1人に、100万円を

るキャンペーンを実施する。

ている」と自信を示す。

る楽しい場所にするという意味を込めた造語「ジョイダイ」を提唱し、「かつての茶の間に持っていた求心力を取り戻そう」とPRしている。

同工法は、河野社長が1976(昭和51)年の創業以来積み重ねた建築業経験の集大成として、構想に4年、実際

の設計に1年半かけて開発した。南側を向いた居間を45度の角度で囲むように、日の出側にダイニング、日没側に寝室を配置。四季を通じて、その季節に最もふさわしい光が各室に差し込み、風通しも効果的に機能するようにした。

特にダイニングは、寒い冬

は日の出とともに夕方まで太陽光で満たされる一方、夏の暑い日差しが照りつけることがない。一日中居心地が良い空間になっている。

昨年3月、同工法による住宅を宮崎市内で初めて建築。ほぼ四季を一通り経験した60代の家主夫婦は「夏は心地よい北風が入ってエアコンをほとんど使わずに済んだ。冬は日当たりがよく暖かい。よく考えて造られていて、満足している」と笑顔を見せる。

河野社長は「ダイニングは家族の中心になる最も大切な場所。人が集まる要件は明るさで、ハウス・バタフライ工法では食卓に朝日が当たるところを極めて重要視した。光環境と熱環境を計算して設計している」と自信を示す。